

平成21年6月期 第2四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 株式会社 ビューティ花壇
 コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

(氏名) 小田敬史
 (氏名) 高山浩司

TEL 03-5776-5850

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年6月期第2四半期の連結業績(平成20年7月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年6月期第2四半期	1,849	—	△42	—	△40	—	△56	—
20年6月期第2四半期	1,816	—	△3	—	△1	—	△11	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年6月期第2四半期	△2,285.12	—
20年6月期第2四半期	△473.66	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
21年6月期第2四半期	1,298	447	447	513	32.3	17,098.95	17,098.95	
20年6月期	1,302	513	513	513	37.1	19,708.56	19,708.56	

(参考) 自己資本 21年6月期第2四半期 419百万円 20年6月期 483百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年6月期	—	0.00	—	342.00	342.00
21年6月期	—	—	—	—	—
21年6月期(予想)	—	—	—	345.00	345.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年6月期の連結業績予想(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	5.0	59	△44.6	60	△43.5	28	0.0	1,148.72

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 — 社(社名) () 除外 — 社(社名) ()(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年6月期第2四半期 24,552株 20年6月期 24,540株
 ② 期末自己株式数 21年6月期第2四半期 0株 20年6月期 0株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年6月期第2四半期 24,548株 20年6月期第2四半期 24,471株

*業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記数値と異なる場合があります。

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場の混乱に加え、企業収益や個人消費が低迷するなど景気の減速感が一段と強まりました。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、その79.4%を占める主力の生花祭壇事業が堅調に推移したものの、景気の減速に伴う生花小売店への卸売販売、法人のギフト生花の需要やブライダル装花の受注が減少した結果、1,849,445千円となりました。

売上総利益については、生花の卸売単価が低価格で推移したことと、輸入品を社内消費分として重点的に割り当てたことによる仕入原価の低減により、363,650千円となりました。

販売費及び一般管理費については、広告宣伝費や業務委託費を抑えたものの、輸入増加に伴う荷造運賃、内部統制などの強化に伴う人件費や顧問料の増加等があり、406,463千円となりました。

その結果、営業損失は42,812千円となりました。また、経常損失は40,906千円、四半期純損失は法人税等調整額や少数株主損失により56,097千円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、1,468,270千円となりました。厚生労働省「人口動態統計速報」(平成20年11月分)によると、死亡人口は引き続き増加傾向にあり、平成20年7月から11月の累計において455,421人と前年比で2.1%増加しました。ただし、前年は一昨年と比較して3.9%増と大きく増えていたのに比べると若干増加率が低下しております。また、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」(サンプル調査)によると、葬儀業の平成20年7月から11月の取扱件数は前年比2.3%増の131,781件、売上高は3.0%増の200,558百万円となっております。このような状況のもと、当事業の国内売上高は、1,402,481千円となりました。当社が属する葬祭業界におきましては景気動向の直接的影響は受けにくいものの、近年、人々の価値観や社会構造の変化に伴い葬儀の小型化傾向が見られます。こうした中、生花祭壇においても「家族葬」ニーズへの対応を模索しながら、平成20年7月から12月の受注件数は堅調に推移し、前年よりも340件増えて7,769件(4.6%増)となりました。また収益の向上を目指して社葬・大型葬の獲得に取り組み、平成20年7月から12月の受注件数は前年よりも24件増えて75件(47.1%増)となりました。前期平成19年7月から12月の累計期間における生花祭壇の平均受注単価は前年比で1.8%減少していましたが、当期平成20年7月から12月の平均受注単価は4.0%上昇しております。その結果、営業利益は186,182千円となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、321,621千円となりました。景況感を反映した消費者の生活防衛意識が急速に高まって個人消費が急落、嗜好品である生花の購入を控える傾向が上昇しました。農林水産省「花き流通統計」(平成20年11月分)によると、平成20年7月から11月の切り花累計の数量は前年比で2.6%減、とりわけ11月は10.9%減と大きくマイナスとなっております。法人においても、収益が圧迫され経費削減のおり、胡蝶蘭等の法人用ギフト生花の需要が大きく落ち込みました。同統計による平成20年7月から11月の胡蝶蘭の数量も前年比で2.0%減、11月は15.8%減となっております。また当期は海外の生産者からの輸入比率を高めるべく、海外調達にかかわる人員を増員し対応しました。平成20年7月から12月の輸入本数は前年より4.8%増の245万本となり、輸入比率も0.8ポイント上昇し21.3%となりました。ただし平成20年10月から12月における輸入本数比率は23.9%と前年同期の25.6%より1.7%減少しました。十分な数量の輸入品を確保できず、社内消費分として重点的に割り当てたことから生花祭壇事業の売上総利益は改善したものの、海外調達の人員増による人件費等が増える一方で生花卸売事業の外部販売が伸び悩んだ結果、営業利益は33,291千円となりました。

(その他事業)

その他事業は、ブライダル事業及びプランツスケープ事業からなり、売上高は59,553千円となりました。営業損失は24,497千円となっております。連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおいては、収益性の低い不採算顧客との取引を整理し、売上総利益率の改善を図りましたが、主力のホテルの婚礼件数が減少したことに伴い、売上高と売上総利益が減少し、営業損失が拡大しました。また、オフィス・商業施設の植栽による空間演出を行うプランツスケープ事業は、株式会社メガロスが運営する恵比寿にある女性専用のフィットネスクラブ&ラウンジのBIVIOの室内外の植栽・メンテナンスを請け負う大型注文がありました。

※ 前年同期比較に関する情報は参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,023千円減少し、1,298,213千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ18,606千円減少し、652,053千円となりました。これは主に現金及び預金の減少等によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ14,582千円増加し、646,160千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ61,906千円増加し、850,479千円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ104,781千円増加し、555,451千円となりました。これは主に未払法人税等の減少と短期借入金の増加等によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ42,875千円減少し、295,028千円となりました。これは主に長期借入金の減少等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ65,930千円減少し、447,734千円となりました。これは主に剰余金の配当による利益剰余金の減少によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ107,489千円減少し、168,193千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は63,013千円となりました。これは、主に売上債権の増加51,344千円とたな卸資産の増加14,855千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は80,780千円となりました。これは、主に貸付による支出45,500千円と差入れ保証金の差入れによる支出51,808千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は36,833千円となりました。これは、主に社債の発行による収入50,000千円があった一方で、配当金の支払額8,392千円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

米国のサブプライムローンを起因とする世界的な金融の混乱が実体経済にも影響を及ぼし、生花業界においては、景況感を反映した消費者の生活防衛意識が急速に高まって個人消費は急落、嗜好品である生花の購入を控える傾向が上昇しております。また、法人においても、収益が圧迫され経費削減のおり、胡蝶蘭等の法人用ギフト生花の需要が大きく落ち込んできております。当上期においては、生花卸売事業に注力し、売上高、営業利益を大きく伸ばす計画にしておりましたが、急速な需要の減退に伴い販売が低迷し、計画とは大きな乖離が発生しました。今後も企業収益の低迷や個人消費が減退することが予想されることから、生花卸売事業におきましては厳しい事業環境が続く可能性があります。

葬祭業界におきましては、支出は景気動向の直接的影響は受けにくいことから生花祭壇事業は概ね計画通り受注を確保できる見込みであり、当社グループにおきましては、当下期は、中核事業である生花祭壇事業への経営資源の集中を徹底させてまいります。生花祭壇事業においては、関東及び関西地区における営業と施行能力の拡充に取り組むと同時に、生花卸売事業においても、葬祭業界と関連する生花祭壇の技術力を活かしたフラワーネットワークの構築に注力し、売上高の拡大を目指す考えです。

また、生花需要が低迷していることを受け、生花単価は前年に比べ安価に推移しておりますが、輸入切花の仕入れ比率を増加させると同時に、生産者の更なる開拓を進めることで、原価の低減・抑制を強化し、収益力の向上を図ってまいります。

このような状況をふまえ、平成21年2月2日開示の「平成21年6月期第2四半期及び通期業績予想（連結及び個別）の修正ならびに配当予想の修正に関するお知らせ」に記載の通り、平成20年8月13日に公表しました平成21年6月期の通期連結・個別業績予想を本資料においても修正しております。

4. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、商品・原材料・貯蔵品については主として最終仕入原価法による原価法、仕掛品については主として個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、それぞれ、商品・原材料・貯蔵品については主として最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、仕掛品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

なお、この変更による損益への影響はありません。

③ 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。

なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	168,193	275,682
受取手形及び売掛金	401,070	350,280
商品	3,311	3,482
原材料及び貯蔵品	29,837	13,731
仕掛品	—	1,080
その他	56,376	32,325
貸倒引当金	△6,735	△5,922
流動資産合計	652,053	670,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	123,823	192,334
減価償却累計額	△42,642	△40,033
建物及び構築物(純額)	81,180	152,300
工具、器具及び備品	135,185	129,571
減価償却累計額	△82,601	△72,169
工具、器具及び備品(純額)	52,584	57,401
土地	127,445	127,445
その他	9,937	13,349
減価償却累計額	△7,978	△7,562
その他(純額)	1,959	5,786
有形固定資産合計	263,169	342,935
無形固定資産		
のれん	8,780	10,537
その他	81,044	96,781
無形固定資産合計	89,825	107,318
投資その他の資産		
その他	310,730	206,822
貸倒引当金	△17,566	△25,498
投資その他の資産合計	293,164	181,323
固定資産合計	646,160	631,577
資産合計	1,298,213	1,302,237

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	105,107	63,506
短期借入金	90,000	—
未払法人税等	5,139	33,404
株主優待引当金	1,609	3,500
その他	353,595	350,257
流動負債合計	555,451	450,669
固定負債		
社債	180,000	180,000
長期借入金	88,670	125,955
退職給付引当金	8,135	5,496
その他	18,222	26,451
固定負債合計	295,028	337,903
負債合計	850,479	788,573
純資産の部		
株主資本		
資本金	209,100	209,040
資本剰余金	129,100	129,040
利益剰余金	84,291	148,781
株主資本合計	422,491	486,861
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,077	—
為替換算調整勘定	△3,755	△3,213
評価・換算差額等合計	△2,677	△3,213
少数株主持分	27,920	30,016
純資産合計	447,734	513,664
負債純資産合計	1,298,213	1,302,237

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)
売上高	1,849,445
売上原価	1,485,795
売上総利益	363,650
販売費及び一般管理費	406,463
営業損失(△)	△42,812
営業外収益	
受取利息	1,146
受取地代家賃	4,263
為替差益	2,223
その他	3,463
営業外収益合計	11,096
営業外費用	
支払利息	3,366
不動産賃貸費用	1,839
その他	3,983
営業外費用合計	9,189
経常損失(△)	△40,906
特別損失	
支社閉鎖損失	2,314
その他	284
特別損失合計	2,598
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,505
法人税、住民税及び事業税	1,673
法人税等調整額	12,471
法人税等合計	14,144
少数株主損失(△)	△1,552
四半期純損失(△)	△56,097

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△43,505
減価償却費	33,334
のれん償却額	1,756
長期前払費用償却額	501
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,406
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,638
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△1,890
受取利息	△1,146
受取賃貸料	△4,263
助成金収入	△1,440
支払利息	3,366
支社閉鎖損失	2,314
売上債権の増減額(△は増加)	△51,344
たな卸資産の増減額(△は増加)	△14,855
その他の資産の増減額(△は増加)	△14,155
投資その他の資産の増減額(△は増加)	2,362
仕入債務の増減額(△は減少)	43,355
その他の負債の増減額(△は減少)	4,893
その他	2,534
小計	△34,136
利息の受取額	1,493
賃貸料の受取額	3,184
助成金の受取額	1,440
利息の支払額	△2,989
支社閉鎖による支出	△2,314
法人税等の支払額	△29,691
営業活動によるキャッシュ・フロー	△63,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	
貸付けによる支出	△45,500
貸付金の回収による収入	24,106
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,608
投資有価証券の取得による支出	△5,712
差入保証金の差入による支出	△51,808
差入保証金の回収による収入	3,742
投資活動によるキャッシュ・フロー	△80,780

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成20年7月1日
至 平成20年12月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	100,000
短期借入金の返済による支出	△10,000
長期借入れによる収入	50,000
長期借入金の返済による支出	△86,730
社債の発行による収入	50,000
社債の償還による支出	△50,000
株式の発行による収入	120
配当金の支払額	△8,392
その他	△8,164
財務活動によるキャッシュ・フロー	36,833
現金及び現金同等物に係る換算差額	△528
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△107,489
現金及び現金同等物の期首残高	275,682
現金及び現金同等物の四半期末残高	168,193

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年12月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,468,270	321,621	59,553	1,849,445	—	1,849,445
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	474,369	25,612	499,982	△499,982	—
計	1,468,270	795,991	85,165	2,349,427	△499,982	1,849,445
営業利益(又は営業損失(△))	186,182	33,291	△24,497	194,975	△237,788	△42,812

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

- (1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花
(2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花
(3) その他……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年12月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,803,420	46,024	1,849,445	—	1,849,445
(2) セグメント間の内部売上高又は振 替高	—	34,334	34,334	△34,334	—
計	1,803,420	80,359	1,883,780	△34,334	1,849,445
営業利益(又は営業損失(△))	196,631	△3,283	193,347	△236,160	△42,812

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

アジア……台湾

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成20年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日)		
	金額 (千円)		百分比 (%)
I 売上高		1,816,365	100.0
II 売上原価		1,457,736	80.3
売上総利益		358,628	19.7
III 販売費及び一般管理費		361,874	19.9
営業損失 (△)		△3,245	△0.2
IV 営業外収益			
1. 受取利息	1,187		
2. 受取地代家賃	4,324		
3. その他	689	6,202	0.3
V 営業外費用			
1. 支払利息	2,567		
2. 社債保証料	557		
3. 賃貸不動産費用	844		
4. その他	261	4,230	0.2
経常損失 (△)		△1,274	△0.1
VI 特別損失			
1. 固定資産除却損	2,550	2,550	0.1
税金等調整前中間純損失 (△)		3,825	△0.2
法人税、住民税及び事業税	18,503		
法人税等調整額	△819	17,683	1.0
少数株主損失		9,944	0.6
中間純損失 (△)		△11,564	△0.6

(2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年7月1日 至 平成19年12月31日)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失(△)	△3,285
減価償却費	34,461
のれん償却額	1,756
長期前払費用償却費	571
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8,229
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,071
受取利息及び受取配当金	△1,187
支払利息	2,567
固定資産除売却損益(△は益)	2,550
売上債権の増減額(△は増加)	△66,683
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,093
その他資産の増減額(△は増加)	△5,197
その他投資の増減額(△は増加)	△13,139
仕入債務の増減額(△は減少)	43,464
その他負債の増減額(△は減少)	△10,736
その他	81
小計	△10,109
利息及び配当金の受取額	1,152
利息の支払額	△2,185
法人税等の支払額	△49,810
営業活動によるキャッシュ・フロー	△60,952
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の取得による支出	△3,000
貸付金の回収による収入	6,651
固定資産の取得による支出	△89,529
固定資産の売却による収入	554
差入保証金の差入による支出	△1,611
差入保証金の回収による収入	12,507
その他	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△74,437
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入による収入	100,000
長期借入による収入	20,000
長期借入金の返済による支出	△6,110
社債の償還による支出	△50,000
株式の発行による収入	760
配当金の支払額	△42,090
その他	△8,164
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,395
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△357
V 現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	△121,350
VI 現金及び現金同等物の期首残高	266,324
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	144,973

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間(平成19年7月1日～平成19年12月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,352,991	388,681	74,692	1,816,365	—	1,816,365
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	461,171	20,680	481,851	△481,851	—
計	1,352,991	849,852	95,373	2,298,216	△481,851	1,816,365
営業費用	1,229,187	796,516	114,276	2,139,980	△320,369	1,819,611
営業利益(又は営業損失(△))	123,803	53,336	△18,903	158,236	△161,482	△3,245

[所在地別セグメント情報]

前中間連結会計期間(平成19年7月1日～平成19年12月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,769,290	47,074	1,816,365	—	1,816,365
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,769,290	47,074	1,816,365	—	1,816,365
営業費用	1,593,897	66,841	1,660,738	158,872	1,819,611
営業利益(又は営業損失(△))	175,393	△19,767	155,626	△158,872	△3,245

[海外売上高]

前中間連結会計期間(平成19年7月1日～平成19年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。